はばたけ

No.4

栃木障害者の自立をめざす会
発行責任者 中山 全央
栃木市大町五・六 0282-23-[illegible]
発行日・'88・2・8

新年号の発刊にあたって

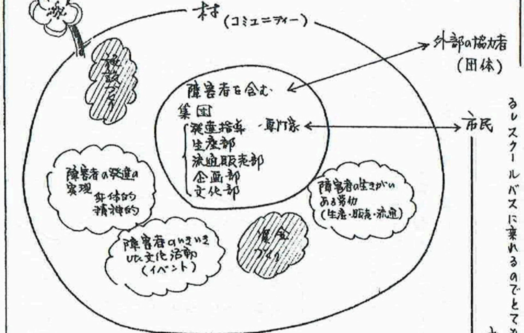
栃木障害者の自立をめざす会も、発足後二年目を迎える年になりました。　昨年は数社の新聞に「会」が紹介されたり、会への入会は県外からの申し込みがあったり一定の拡がりをみせております。　また、都賀町の佐藤様より畑の貸与、その他、多勢の方々の篤志によって貴重な一年間を過ごさせていただきました。　しかし、私たちの活動は一歩足を踏み出したにすぎません。　今年は畑の耕作はもちろん、シイタケ栽培、施設見学、その他多くの行事を行いたいと思います。その中で会員の親睦をより深め、会員を二倍・三倍にも拡げ「自立の会」発展の地歩を築きたいと思っています。　皆様方の多大な御協力をお願いいたします。

事務局長　島田　勇

学習会と新年会（講演）より

去る一月三十一日大平町の永野川学童クラブにおいて学習会と新年会が行なわれました。　学習会では副会長の白沢さんより――新しい「村」をつくろう――と題した講演がありました。　その中で、古い村とは、①子どもは親だけのものでなくその地域の中の一員として育てられた ②お互いに知り合った人間関係から育った共感の力があった ③しかしながら個人の独立した人格が侵されやすかった、という特徴があげられ、それらを踏まえて　①お互い知り合った人間関係からの共感を大切にしながら　②個人の人格が保証されるような共同と自立の「新しい村づくり」をしていこうという話や人類史という大きな視野に立つならば、障害者とは決して劣った存在としてあるのではなく「人類の進化の戦士」として人類史になくてはならない尊い存在であるとの話しもありました。そして次の図のような具体的な構想図もだされました。

昼食をはさんで、午後からは年間行事計画(案)がだされ今年は、多くの施設を見学してイメージをはっきりさせていくと同時に資金作りにも力を入れよう等意見の交換がなされました。



村（コミュニティー）
外部の協力者（団体）
障害者を含む集団
発達指導 ・専門家
生産部
流通販売部
企画部
文化部
市民
施設づくり
障害者の発達の実現 身体的 精神的
障害者のいきいきした文化活動（イベント）
資金づくり
障害者の生きがいある労働（生産・販売・流通）

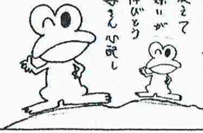
構想図

第二回　高木 文江

（早苗ちゃんの巻）

こんにちは、高木早苗12才、栃木第一小6年、元気印の女の子です。　祝町にお父さん、お母さんの3人で住んでいますが、粟野町上永野にジィちゃん、バァちゃんもいます。　保育所や学校のことがあって、4才の時に栃木に越してきたので時々永野に帰ります。

みんなうたが好きなのでカラオケ大会をしますが、私は「浪花節だよ人生は」とお父さんが教えてくれた「せんせい」をうたいます。　好き嫌いがないし何でも良く食べるので急に背も伸びもう少しでお母さんと同じになります。（お母さん心配しないでこれから私がおぶってあげるから）

4月からは中学生、養護学校にいきます　クラスのお友達とサヨナラするのは少し寂しいけどすぐ新しいお友達もできるしスクールバスに乗れるのでとても楽しみです。